



中谷 元 防衛大臣来沖



中谷大臣と翁長沖縄県知事との面談



平和祈念公園を訪問



四軍調整官との面談

目次

CONTENTS

| | |
|-------------------------------------|----|
| 中谷防衛大臣の沖縄訪問 | 2 |
| 中谷防衛大臣、沖縄全戦没者追悼式へ参列 | 3 |
| 嘉手納飛行場における航空機の運用実態調査(目視調査)の結果 | 3 |
| 左藤防衛副大臣の宮古島市・石垣市訪問 | 4 |
| 久辺三区の振興に関する懇談会の開催 | 5 |
| 防衛施設周辺対策事業 | 6 |
| 嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺の航空機の騒音状況 | 7 |
| 沖縄県在日米軍事事故対応に関する合同協議会 | 8 |
| 合衆国軍隊の構成員等による行為で被害を受けられた方へ | 8 |
| 爬竜舟でキャンプ・シュワブ海兵隊員が辺野古区親善・交流 | 9 |
| 豊原区アブシバレー・ハーレー | 10 |
| 嘉手納ハーレーで力漕 | 10 |
| キャンプ・ハンセン海兵隊員によるボランティア活動 | 11 |
| 米海兵隊普天間航空基地マジック10マイルレース | 11 |
| 自衛隊員によるボランティア活動 | 12 |
| マンスフィールド財団来日プログラムの研修 | 12 |
| お知らせ | 12 |

中谷防衛大臣の沖縄訪問

中谷防衛大臣は、5月8日から9日の日程で、大臣就任後初めて沖縄を訪れました。

8日は嘉手納町の沖縄防衛局において、同局職員を激励しました。翌9日には、平和祈念公園において戦没者墓苑に献花し、平和の礎等を訪れた後、沖縄県庁で翁長沖縄県知事と面談しました。

その後、北谷町において四軍調整官との面談、牧港補給地区及び那覇港湾施設移設先の視察を行い、佐喜眞宜野湾市長の説明を受けながら、宜野湾市役所屋上から普天間飛行場を視察しました。

また、航空自衛隊那覇基地及び陸上自衛隊那覇駐屯地を視察し、隊員への訓示等を行いました。



沖縄防衛局職員への激励



牧港補給地区の視察



宜野湾市役所屋上から普天間飛行場を視察



航空自衛隊那覇基地を視察



陸上自衛隊那覇駐屯地において隊員へ訓示する中谷大臣

中谷防衛大臣、沖縄全戦没者追悼式へ参列

6月23日、中谷防衛大臣は、糸満市の平和祈念公園で執り行われた平成27年沖縄全戦没者追悼式に参列しました。追悼式では、先の大戦で亡くなられた方々の御冥福を祈りました。



戦没者墓苑へ献花する中谷大臣



追悼式で黙とうする中谷大臣(左から3人目)

嘉手納飛行場における航空機の運用実態調査(目視調査)の結果

1 調査目的について

沖縄防衛局では、嘉手納飛行場周辺住民等から、「日頃から外来機が飛来し訓練を実施するため騒音が増加している」、あるいは「平成18年5月の再編実施のための日米のロードマップに基づく同飛行場所属の航空機の訓練移転期間中に外来機が飛来し訓練を行っているため騒音が増加し負担軽減が実現されていない」との御指摘を受けていることを踏まえ、外来機の飛来状況等について、平成22年4月から部外委託により目視調査を実施しています。

2 平成26年度調査結果(離着陸等回数)について

| | | 常駐機と考えられる航空機 | | | 外来機と考えられる航空機 | | | 判別困難な航空機 | 合計 |
|-----------|---------------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|----------------|-------------|----------------|
| | | 戦闘機 | 戦闘機以外 | 小計 | 戦闘機 | 戦闘機以外 | 小計 | | |
| 離着陸等回数 | 平成22年度 | 13,067回 | 17,726回 | 30,793回 | 7,692回 | 6,358回 | 14,050回 | 57回 | 44,900回 |
| | 平成23年度 | 9,720回 | 15,601回 | 25,321回 | 4,794回 | 5,826回 | 10,620回 | 19回 | 35,960回 |
| | 平成24年度 | 9,867回 | 17,259回 | 27,126回 | 4,583回 | 5,367回 | 9,950回 | 34回 | 37,110回 |
| | 平成25年度 | 14,914回 | 19,770回 | 34,684回 | 5,977回 | 6,365回 | 12,342回 | 52回 | 47,078回 |
| | 平成26年度 | 14,511回 | 17,303回 | 31,814回 | 3,398回 | 7,229回 | 10,627回 | 5回 | 42,446回 |
| 1日当たり平均回数 | 平成22年度 | 35.8回 | 48.6回 | 84.4回 | 21.1回 | 17.4回 | 38.5回 | 0.2回 | 123.0回 |
| | 平成23年度 | 26.7回 | 42.8回 | 69.5回 | 13.2回 | 16.0回 | 29.2回 | 0.1回 | 98.8回 |
| | 平成24年度 | 27.4回 | 47.9回 | 75.3回 | 12.7回 | 14.9回 | 27.6回 | 0.1回 | 103.0回 |
| | 平成25年度 | 41.0回 | 54.3回 | 95.3回 | 16.4回 | 17.5回 | 33.9回 | 0.1回 | 129.3回 |
| | 平成26年度 | 39.9回 | 47.5回 | 87.4回 | 9.3回 | 19.9回 | 29.2回 | 0.0回 | 116.6回 |
| 割合 | 平成22年度 | 29.1% | 39.5% | 68.6% | 17.1% | 14.2% | 31.3% | 0.1% | 100.0% |
| | 平成23年度 | 27.0% | 43.4% | 70.4% | 13.3% | 16.2% | 29.5% | 0.1% | 100.0% |
| | 平成24年度 | 26.6% | 46.5% | 73.1% | 12.3% | 14.5% | 26.8% | 0.1% | 100.0% |
| | 平成25年度 | 31.7% | 42.0% | 73.7% | 12.7% | 13.5% | 26.2% | 0.1% | 100.0% |
| | 平成26年度 | 34.2% | 40.8% | 75.0% | 8.0% | 17.0% | 25.0% | 0.0% | 100.0% |

※計数は四捨五入しているため合わないことがある

調査結果の詳細については、当局ホームページ(<http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>)に掲載しています。

3 目視調査結果の活用について

平成26年度目視調査の結果については、1年間(平成26年4月1日から平成27年3月30日まで、午前6時から午後6時まで)の調査を終え、本年5月に公表しました。当局としては、平成27年度においても、調査を継続してデータの蓄積を行い、嘉手納飛行場における航空機の運用実態の更なる把握に努め、同飛行場から派生する騒音問題等に関し、周辺住民の方々の負担軽減に資することができるよう活用したいと考えております。

左藤防衛副大臣の宮古島市・石垣市訪問について

5月11日、左藤防衛副大臣は、宮古島市及び石垣市をそれぞれ訪問しました。



下地宮古島市長との面談の様子



左藤副大臣(手前)と中山石垣市長(奥)との面談

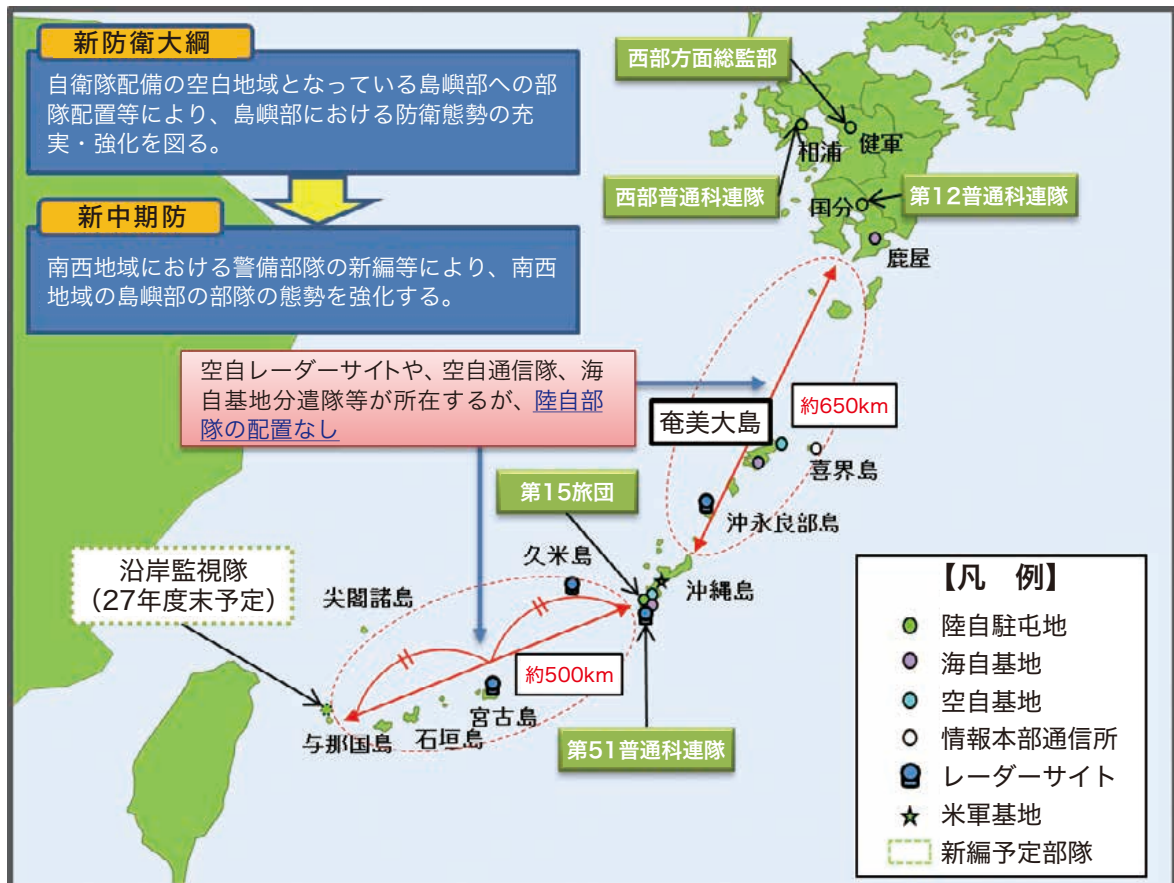
下地宮古島市長と面談した際、南西地域の安全保障環境が厳しさを増している中、島嶼部の安心・安全の確保が重要な課題となっていることを踏まえ、宮古島への陸自警備部隊等の配置の申入れを行いました。

この申入れ等に対し下地宮古島市長は、「副大臣のおっしゃることについて理屈としては十分理解できる」、「この件は、市議会に連絡して十分議論してもらいたい」旨の発言がありました。

また、中山石垣市長と面談した際には、南西地域における警備部隊配置の重要性について説明するとともに、石垣島を部隊配置の「有力な候補地の一つ」として考えていることを伝え、候補地選定に係る現地調査について理解と協力をお願いしました。

これに対し中山石垣市長は、「国防・安全保障に関しましては、国の専権事項でありまして、それに対して協力態勢はとっていきたいと思っております」と発言されました。

警備部隊の新編について(南西地域の現状と課題)



「久辺三区の振興に関する懇談会」の開催について

5月30日、名護市辺野古交流プラザにおいて、辺野古区長、豊原区長及び久志区長、沖縄防衛局長、沖縄総合事務局長が出席し、「久辺三区の振興に関する懇談会」が開催されました。

第1回開催の今回は、政府からは内閣官房内閣審議官、内閣府政策統括官及び防衛省地方協力局長が同席しました。

「久辺三区の振興に関する懇談会」の概要

昨年9月、久辺三区長から国に対して提出された普天間飛行場代替施設建設に係る諸要望はもとより、その他の地元振興に係る各種要望について、可能な限り実現を図るとの観点から、その内容を具体的に聴取し、密接な意見交換を行うことを通じて、国の施策に反映させ、協力してまちづくりを進めるため、今般、「久辺三区の振興に関する懇談会」が開催されました。



「久辺三区の振興に関する懇談会」会場の様子

第1回「久辺三区の振興に関する懇親会」の概略

辺野古区長から、基地負担に見合った住民への補償的施策をはじめ、昨年9月10日の要望項目の中でできるものから目に見える形で取り組んで貰いたい旨の要望、豊原区長から、久辺三区における下水道の整備、多目的公園の整備に係る要望、久志区長から、県道13号線の改修、キャンプ・シュワブの借料見直し、太陽光発電に係る要望など、昨年9月、国側に要請のあった内容についてあらためて説明がありました。



国側に要請する久辺三区長等



久辺三区長へ説明する国側

沖縄防衛局長からは、各区の要望に対する取り組み状況について、また、沖縄総合事務局長からは、久辺三区の要望について関係省庁とも連携しながら検討させて頂きたい旨を説明いたしました。

久辺三区からの要望については、その実現に向け、この懇談会において久辺三区の皆様と率直な意見交換を重ね、防衛省、内閣府及び関係省庁が連携し、全力で取り組み、可能なものから引き続き協議させて頂き、政府の施策に反映させ、協力して久辺三区のまちづくりを進めていくことを確認いたしました。

読谷村初の児童館が完成

読谷村みらい児童館は、平成26年度に読谷村が特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用して、共働き等の理由により昼間保護者が不在となる家庭における児童のための施設として、村内で初めて整備されたものであり、学童保育施設も併設されています。

この度、本施設の開所式が5月18日に挙行され、読谷村長、地元関係者及び当局局長が出席し、開所を祝いました。

読谷村は「日本一人口の多い村」とされており、本施設整備により、子育て環境の充実化が図られたことは、多くの村民の願いであったものと承知しております。当局と致しましては、本施設を活用することによって、読谷村がますます発展されることを願っております。



施設外観



テープカットの様子

沖縄カトリック小学校・講堂の防音工事を実施・完成



校舎の外観

沖縄カトリック小学校の校舎・講堂の防音工事につきましては、平成26年度末に完成いたしました。

同校については、普天間飛行場を離発着する航空機による騒音を防止又は軽減するため、防衛施設周辺防音事業により、改築防音工事として校舎・講堂の建替費を始め、防音サッシや空気調和設備(エアコン等)の設置等に要する費用について補助いたしました。

同校の防音工事を実施したことにより、未来を担う子ども達の教育環境が改善され、さらに、子ども達の個性がより育まれ、健やかに成長し、世界に羽ばたいていくものと確信しております。当局としては、引き続き、地元のご要望に添えるように努めてまいるとともに、今後とも防衛施設周辺にお住まいの皆様方の生活環境の改善のための各種施策の実施に取り組んで参ります。



講堂

沖縄カトリック学園有馬馬瑠理事長のひとこと

学校法人カトリック沖縄学園沖縄カトリック小学校の校舎建替えは、長年の夢であり念願でしたが、この度、沖縄防衛局より改築防音工事の補助事業として諸費用を補助していただき、実現いたしました。

21世紀を担う子どもたちが、安心・安全な教育環境の下で学べることに心から感謝しております。建学の理念に掲げたとおり、子どもたち一人一人が自己の人生に使命感を持ち、世界に寄与する人となるよう、さらに努力を注いでまいります。



嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺の航空機の騒音状況について

沖縄防衛局は、嘉手納飛行場の滑走路両端2箇所及び同飛行場周辺12箇所の計14箇所、並びに普天間飛行場周辺の滑走路両端付近2箇所を含む同飛行場の東西南北の計4箇所に航空機騒音自動測定装置を設置し、常時、騒音の発生状況及びその変化の把握に努めているところであります。

下図に示す各測定点の航空機騒音状況について、平成25年度からは、航空機騒音に係る環境基準(昭和48年12月環境庁告示第154号)の一部改正(平成25年4月から適用)を踏まえ、WECPNL値とLden値(括弧書き)を併記することとしました。



(参考) 指定基準値について

- 第一種区域 75WECPNL → Lden 62 (dB)
- 第二種区域 90WECPNL → Lden 73 (dB)
- 第三種区域 95WECPNL → Lden 76 (dB)

沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会



合同協議会の様子

平成16年8月に発生した米海兵隊ヘリコプターの沖縄国際大学への墜落事故を機に、在沖米軍関連事故が発生した際、現場における関係機関の連携強化を図り、政府一体としての危機管理を実現するために設置された、「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」の第22回目の会合が、6月10日、外務省沖縄事務所において開催され、昨年行われた第10回在沖縄日米危機管理会議及び各種訓練の実施結果などについて確認しました。また、今後も各種訓練等を計画的に推進することにより円滑かつ迅速な米軍事故対応が行われるよう、認識の共有を図るとともに、関係機関の連絡・協力体制の強化を図っていくことを了承しました。

合衆国軍隊の構成員等による行為で被害を受けられた方へ

沖縄防衛局では、日米地位協定に基づき、合衆国軍隊及び構成員等(軍人・軍属)の不法行為により、当局管内で事故や事件で被害を受けられた方々への損害賠償業務を行っております。

- 米軍等の行為が**公務上**の場合(日米地位協定第18条第5項)
 - ・被害を受けた損害額を**日本国政府**が支払います。
 - ・損害賠償金を請求できる期間は、事故が発生したときから**3年間**です。
- 米軍等の行為が**公務外**の場合(日米地位協定第18条第6項)
 - ・原則として、交通事故での保険解決のように直接加害者との間で示談解決することになりますが、**示談により解決が困難な場合**、加害者に代わって合衆国政府が補償金の額を決定して支払います。
 - ・補償金を請求できる期間は、事故が発生したときから**2年間**です。

[被害を受けられた方は、事故等発生後、早急に下記の担当部署までご連絡ください。]



沖縄防衛局 管理部 業務課 事故補償係
電話：098-921-8131 内線 412、413 まで
住所：沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納290番地9

※なお、米軍人・軍属が運転する私有車両(Yナンバー等)との交通事故の場合は、相手が加入している任意自動車保険の保険会社名・保険番号などを確認して、保険会社等へもお問い合わせください。

はりゅうせん

爬竜舟でキャンプ・シュワブ海兵隊員が辺野古区親善・交流

今年も辺野古ハーレーが6月28日に総勢31チームが参加し盛大に開催されました。当日は、晴天に恵まれたものの、風が強い中、区内10班、辺野古11班のキャンプ・シュワブチーム、職域(男子17、女性4)の各チームが参加して熱戦をくりひろげました。

辺野古ハーレーに、キャンプ・シュワブ海兵隊員が参加するようになった歴史は古く、今から42年前の昭和48年から参加しています。会場の松田ヌ浜には、終始歓声が響き、ハーレーは熱戦の後、無事に終了しました。

ハーレー開催に先立ち、会場の松田ヌ浜において、辺野古区老人会と海兵隊員(約30名)が協同で清掃活動を行いました。キャンプ・シュワブの海兵隊員は、老人ホームや養護施設の訪問や清掃活動などのボランティア活動を行うなど地域に貢献しつつ、ハーレー大会の他にも青年会主催の角力大会などにも参加しています。

このように、キャンプ・シュワブは伝統的に、「辺野古11班」として辺野古区と親密な関係にあり、区行政との間で定期的に各種行事の調整を行う親善委員会を開催しています。

角力大会の様子



辺野古区青年会チームと辺野古区11班(シュワブ)選抜チームの取り組みの様子



取り組みを観戦する辺野古区長、当局局長、シュワブ司令官ら



辺野古ハーレーの様子



辺野古ハーレーに参加した当局チーム(手前)とシュワブチーム(奥)



清掃活動の様子



ホール前司令官(左)に新11班の旗を贈呈する嘉陽辺野古区長(右)

青空の下での豊原区アブシバレー・ハーレー

6月14日、豊原クンジダー浜において豊原区アブシバレー・ハーレーが開催されました。平成8年に第1回が開催され、今年が節目の20回目となりました。沖縄防衛局は、今年も職域の部に参加し、「今年こそは入賞」と意気込んで漕ぎ出したものの、風と波の力に抗しきれず残念な結果になってしまいました。結果はともかく、地元企業チームと共にレースに参加し、地元の方々との交流を深めることができ、素晴らしい1日となりました。



豊原区アブシバレー・ハーレーに参加する当局チーム



嘉手納ハーリーで力漕

6月21日、嘉手納漁港において第28回嘉手納ハーリーが開催されました。沖縄防衛局は、嘉手納町に移転した平成20年以降毎年参加しており、今年も3チームをエントリーしました。今年は井上局長のほか、女性職員を含む局職員が櫂を手に力漕しましたが、健闘むなしく予選敗退となりました。出場した職員だけでなく応援の職員やその家族は、梅雨明けのすがすがしい青空の下地元の方々との交流を深めました。



力漕する当局チーム

キャンプ・ハンセン米海兵隊員による特別養護老人ホーム「光が丘」でのボランティア活動

【キャンプ・ハンセン 基地渉外官 嘉陽貴幸】

キャンプ・ハンセンに本部を置く第7通信大隊に所属する隊員達は、特別養護老人ホーム「光が丘」の入居者及び職員の方々と年中行事を通し、過去20年以上に渡り特別な友好関係を築いてきました。月に2回の庭園整備はもとより、夏は「光が丘地域祭り」への参加はもちろんのこと、準備や撤去に汗を流し、秋には観月会でのカラオケや感謝祭のご馳走を楽しみ、冬にはクリスマスを海兵隊サンタと祝い、年の初めには餅つきで一年の無病息災を祈るのです。本国を遠く離れ沖縄にて任務に就く彼らにとって、「光が丘」の皆様は家族のような存在であり、お互いの文化を共有し合うことができるとても大切な関係なのです。大隊の隊員一同、「光が丘」の皆様との今後更なる友好関係を育めることを心より楽しみにしています。



キャンプ・ハンセン米海兵隊員による特別養護老人ホーム「光が丘」での清掃活動の様子



米海兵隊普天間航空基地マジック10マイルレース

【沖縄防衛局 防衛補佐官 浅沼 千代忠】

6月6日、米海兵隊普天間航空基地において、「MCASFutenma MAGIC 10 Miler」と称し、10マイルレースが実施されました。前々日に受付を済ませ、配布されたTシャツは、背中に沖縄県のマーク、その下に片仮名で「マジック10マイラー」と、超微妙なデザイン。しかし、もちろんこれを着用して参加しました。

当日は、朝7時に2台の消防車にポールを立てたスタートラインから出発。基地中央付近のグラウンドから西に出て外周道路を時計回りに進みます。木々の間から各施設の間を抜け4分の3周くらい回って南端へ、そこから誘導路を北上。

午後からのフライトラインフェアの準備が進んでおり、展示の航空機も沢山いました。北端から滑走路に入り南下です。2,700mの滑走路を好き勝手に走れます。みんな端っこの方を走っていたのですが、折角なので真ん中を駆け抜けました。南端から外周道路を経てグラウンドに戻り、基地内全域をほぼ網羅しました。途中、飲み物は水とゲーターレードのサービス。また、東側と西側では、消防車によるワイルドな放水で、涼を取ることができた反面、服が重くなり辛くなりました。ゴールでは、海兵隊の家族のとても可愛い男の子と女の子がメダルを渡してくれました。

当局からの参加者4名。通常は入れない場所かつ広々とした空間で、一部の者は快適さを満喫してのんびりと、一部の者は全力で周囲に目もくれずに走り抜き、全員無事完走しました。



知念の自衛隊員、久高島清掃ボランティア活動に参加

4月18日に、知念自衛隊協力会主催による久高島清掃ボランティア活動に陸上自衛隊知念分屯地及び航空自衛隊知念分屯基地の隊員(総勢50名)が参加し、久高島島民の方々とともに草刈り・清掃活動を行いました。

陸上自衛隊知念分屯地及び航空自衛隊知念分屯基地の隊員は、これまでも自衛隊周辺地域において清掃や緑化作業、海神祭支援等のボランティア活動を行っていますが、今回、知念自衛隊協力会の意向を受けて、夏の観光シーズンに向けて、観光客の受け入れ態勢を万全にするための草刈り・清掃ボランティア活動(久高島東海岸沿い道路約3キロ)に参加したものです。

今回の活動について、内間 文義(うちま ふみよし)久高島区長は、「自衛隊隊員の方々の清掃活動により、東海岸沿い道路がきれいになりました。」と感謝の意を笑顔で語られました。



マンスフィールド財団来日プログラムの研修について

6月19日、米国マンスフィールド財団が国際交流基金日米センターの支援を得て実施する「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワークプログラム」の学者・研修者ら計14名が来局しました。

マンスフィールド財団とは、昭和52年～昭和63年まで駐日大使を務められた故マンスフィールド氏の名にちなみ昭和58年に米国議会によって設立された財団であり、この「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワークプログラム」とは、米国の政策・世論形成・教育分野での活躍が期待される中堅・若手世代の日本専門家の育成を目的とするものです。

当局は、森企画部長が南西地域における現状及び当局の業務概況説明を行いました。



当該プログラムに参加する学者・研修者ら



森企画部長による概況説明

陸上・海上・航空 自衛官募集中!

部隊の中核となる自衛官を目指す **一般曹候補生**

①18歳以上27歳未満 ②161,600円

部隊の第一線でスキルを身につける **自衛官候補生**

①18歳以上27歳未満 ②126,900円(自候生手当)
3ヶ月後には161,600円、更に176,000円の一時金が支給
1任期満了時に特別退職手当 陸：約55万 海・空：90万円

大空へ羽ばたくパイロットへの夢を現実にする **航空学生**

①18歳以上21歳未満 ②161,600円

自衛隊沖縄地方協力本部
TEL 098-866-5457



自衛官候補看護学生



航空学生



将来の国防をにあって **防衛大学校生**

①18歳以上21歳未満 ②109,400円(学生手当)
入学金授業料の納入はありません

豊かな心を育て 医学の力で国を守る **防衛医科大学校 医学科学生**

①18歳以上21歳未満 ②109,400円(学生手当)
入学金授業料の納入はありません

未来に眼を向けた 看護師の養成 **防衛医科大学校 自衛官候補看護学生**

①18歳以上21歳未満 ②109,400円(学生手当)

詳しくはホームページで!「沖縄地本」で検索!

沖縄地本 検索



ハイサイくん

「はいさい」に対する皆様のご意見・ご感想などがありましたらお聞かせください。
連絡先：沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納290-9 沖縄防衛局総務部報道室
メールアドレス：houdou@okinawa.rdb.mod.go.jp